

卒業研究「ゼミ活動から見えた新たなリーダーシップの重要性」(案)

梅澤佳子ホームゼミナール 4年 宮腰裕

1. 経緯

私は地域で実践活動を行っている梅澤ゼミに所属し、2年次から「多世代交流みんなの食卓プロジェクト」を担当した。そこで先輩方から色々な事を学んだ。当時リーダー的役割を務めていた今平先輩は引継ぎの際に「自分はミーティングの際に会話を切らさない事を一番意識していた」と言っていた。その為ミーティングでは、各メンバーが自由闊達に意見を述べ、時間が足りない事が多かった。他にも、上意下達の管理ではなく、メンバー全員が平等にリーダー的役割を持っていると考えるようなプロジェクトの運営になっていた。

3年になり、自分がミーティングの進行役をしてみると、メンバーから意見が出ずに沈黙している時間が長く、早めに切り上げる事も多々あった。進行役によってこんなにも話し合いに違いが出るものかと痛感した。私は先輩達と自分達を比較して改めてリーダーシップとは何なのか、研究テーマとして考察していきたいと考えた。

2. 目的

人間は社会的生き物であり、1人で生きていくことは出来ない。生きていく内に多くの人と関わりを持っていかなければならないのだ。授業、部活動、社会に出てもチーム(=グループ)での活動があり、共に活動する中で成果を出さなければならない。しかしこれからのリーダーシップはこれまでの上意下達の管理方式でないだろう。私は、高校までは、リーダーとは、カリスマ性を持ちチームを引っ張るに相応しい人が務めるべきだと考えていた。しかし、大学でゼミに所属し考えは大きく変化した。今後はどのようなリーダー

シップが求められるのか、必要になっていくのかを明らかにすることが本研究の目的である。

3. 本研究の進捗状況・今後の研究計画

(1)本研究の進捗状況

本研究はリーダーシップに焦点を当て、文献研究を進めている。日向野幹成氏の『高校生からのリーダーシップ入門』を読み、要約しながらリーダーについて理解を深める作業を進め、ゼミで発表し議論を行っているところである。

(2)今後の研究計画

当面はリーダーシップに焦点を当てて研究を行なっていくが、今後は先行研究をあたりながらリーダーシップだけではなく、チーム全体についても研究を進めていく。「このチームは良いチームだ」等の言葉をよく耳にする。実際はどのようなチームを良いチームと呼ぶのか。良いチームにする為にすべきことは何なのかを考察して研究していきたいと考えた。研究方法として、2年の多世代交流みんなの食卓プロジェクトと自分達のプロジェクトのプロジェクトリーダー的役割を務めていた今平先輩にインタビューを試みる。また、リーダーとメンバーという組織の形がはっきりしているプロ野球の監督にも焦点を当てて研究を進める。今後は、研究テーマを「リーダーシップ」と「チームビルディング」の二つにするか「リーダーシップ」のみにするかを自分の中で議論している最中である。

参考引用文献

(1)日向野幹成『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房、2018年